

変化する社会状況や教育を取り巻く課題等を踏まえ、一人一人が幸福な人生をおくるとともに豊かな社会の担い手となるため、今後の教育の使命・役割は何かを考え、基本理念としたい。

社会の現状や2030年以降の変化
 (1)社会状況の変化 (国第3期計画答申)
 → 人口減少・高齢化、急速な技術革新、グローバル化、経済格差・地域間格差 等
 (2)教育をめぐる変化
 → 地域コミュニティの弱体化、家庭の状況変化、教師の負担 等
 (3)教育をめぐる国際的な政策の動向
 → 教育分野での国際協力の推進、変化に対応した教育モデルの開発等

○施策はおおむね順調に進捗。第2期計画の成果を踏まえ、更なる本県教育の充実を図る必要がある。

<p>第2期埼玉県教育振興基本計画における主な成果と課題</p> <p>(主な成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本目標Ⅰ：県学力・学習状況調査により児童生徒一人一人の学力の伸びを把握 基本目標Ⅱ：公立高校生の中途退学率が減少傾向 基本目標Ⅲ：「協調学習」など主体的な学びを推進 基本目標Ⅳ：学校応援団の活動回数が向上 基本目標Ⅴ：「子ども大学」の県内全域への広がり 	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査結果の分析を踏まえた効果的な指導方法の普及 体験活動等の充実による自己肯定感・自己有用感の向上や豊かな心の育成 更なる体力向上に向けた一人一人の課題に応じた取組の充実 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたより一層の授業改善 学校が地域と目的を共有し、連携・協働を進めるための体制の整備 「子ども大学」の組織や内容の充実
--	---

<p>国第3期基本計画答申 5つの基本方針</p> <p>③ 生涯学び活躍できる環境を整える ④ 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティーネットを構築 ⑤ 教育政策推進のための基盤を整備</p>	<p>① 夢と志を持ち可能性に挑戦するために必要となる力を育成 ② 社会の持続的な発展をけん引するために多様な力を育成</p>
<p>人生100年時代構想会議 次期学習指導要領</p> <p>【人生100年時代構想会議 中間報告】 ○ 人生100年時代においては、人々は、「教育・仕事・老後」という3ステージの単線型の人生ではなく、マルチステージの人生を送るようになる。</p>	<p>【幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(平成28年12月21日中教審答申)・学校教育を通じて育みたい姿】 ○ 広い視野をもち理想を実現しようとする高い志や意欲を持って主体的に学び、必要な情報を判断し自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができること。</p>
<p>第1回策定有識者会議における委員の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人生100年時代で学校教育が何を担っていくか。また、ソーシャルインクルージョンの問題等にも大局的に目を向けるべき。 ○ ICTなどの環境整備の最低限の部分ではできるようにしないと大きな格差が生じてしまう。 ○ 母親たちが悩みを共有し、それを先生に聞いていただき、答えを出していく、そういう場にPTAがなればよい。 ○ 新学習指導要領に備え、高校を応援する仕組みとして、プロのコーディネーターの導入を検討していくべきである。 ○ 多文化共生の視点でバランスのよいソース配分をするべきである。 ○ スピード感をもって魅力ある職場づくりを進めるべきである。 ○ 学校応援団の組織をさらに豊かなものにし、先生方をサポートし、子供たちが育っていくような教育をしてほしい。 ○ 産官学との積極的な連携による共同研究や自治体間ネットワークの構築や拡大をしてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 郷土の歴史や偉人などを学び、それを鑑に子供たちが育つようなことがあるとよい。 ○ 将来の夢や目標を持って、自分是不够りたいと力強く語る子供達が埼玉県で増えることを期待する。 ○ 子供達が何か得たものやできたことの喜びを感じ、また、なぜ自分がそのような実践を試みたのかを考えるとアプローチができないか。 ○ 変化に対応できる能力、新しい発想で新たなものを生み出すような能力をつけられる授業等をしていかなければいけない。 ○ 学校における体験学習や人と人のつながりを感じるような機会を増やしてほしい。 ○ 児童生徒の1日保育士体験のような取組を徹底的にやってほしい。

豊かな学び
「誰もが参画しうる生涯を通じた多様な学び」

未来を拓く
「人生や社会の未来を切り拓いていく」

第3期計画基本理念(案)：「豊かな学びで 未来を拓く 埼玉教育」

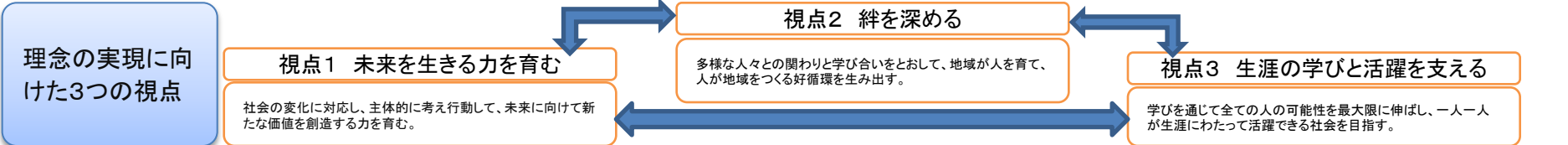
○ 第1期計画(平成21年度策定)では、本県における10年先の教育を見通して、「生きる力を育て絆を深める埼玉教育」を基本理念とし、その理念は、第2期計画(平成26年度策定)に引き継がれてきた。これを基に、これまで「生きる力」を育成し、「絆」を深める様々な施策化も進み、児童生徒一人一人の「生きる力」を確実に伸ばす埼玉県学力・学習状況調査の実施や協調学習など主体的な学びの推進、学校と地域の「絆」を深める学校応援団の活動の充実など、本県独自の取組が実施されてきたところである。

○ 第1期計画策定から10年が経過し、あらためて今後の教育の姿を考えたとき、「生きる力」をさらに伸ばし、「夢」や「志」を持ちつつ社会の激しい変化に対応して、主体的に社会に関わり、未来に向けて新たな価値を創造できる力を育むことが重要である。

○ また、多様な人々が共に暮らす社会において、家庭、地域、学校などが相互に連携・協働し、人々との関わりによる学びを充実・発展させ、これまでに培った「絆」をさらに深めることが求められる。

○ さらに、人生100年時代をより豊かに生きるため、職業生活も含めた生涯にわたる学びをとらえて、自らの可能性を最大限に伸ばし、学びの成果を社会の様々な場面で発揮して、一人一人が生涯輝き続ける社会の実現が望まれる。

○ これらを踏まえ、これまでの教育振興基本計画で掲げた「生きる力を育て絆を深める埼玉教育」という理念を継承しつつ、その目指すところを明確化し更なる本県教育の振興を図るため、社会や多くの人々との関わりなどをとおした豊かな学びで、人生や社会の未来を切り拓く力を育むことを目指し、「豊かな学びで 未来を拓く 埼玉教育」を理念としたい。



第3期計画骨子：基本理念の実現に向け、3つの視点を重視しつつ、《目標(10)》 → 《施策(30)》 → 《主な取組》を展開する